

**第2次世田谷区立図書館ビジョンに対する
令和4年度世田谷区立図書館運営協議会からの意見等一覧**

世田谷区立図書館運営協議会の運営や評価シートに関する意見等は除く

目 次

基本方針 1	「0歳児からの読書を支える図書館」	1~2
基本方針 2	「大人の学びを豊かにする図書館」	3~4
基本方針 3	「暮らしや仕事に役立つ図書館」	5~6
基本方針 4	「世田谷の魅力を収集・発信する図書館」	7
基本方針 5	「図書館ネットワークの構築」	8
基本方針 6	「専門性と効率性を両立した運営体制の構築」	9~10
その他		11~12

○基本方針 1 0歳児からの読書を支える図書館

- ・中央図書館で作成しているブックリストについて、学校とうまく連携できたら、もっと深いものができるのではないかな。
- ・部活に特化した中学生向けのブックリストがあり、それを見て中学校に入ったらこの部活をやりたいというようなことを言う子もいたので、こういったブックリストには効果があるのではないかな。
- ・中央図書館に限らず、ほかの世田谷区内の図書館に足を運んだときに、いろいろブックリストを作っているのを見ていて、とても意欲的に取り組んでいるなと思う。一方で、ブックリストを作成した後の評価も必要だと思う。
- ・子ども読書リーダーについて、小学生だけでなく、中学生の職場体験等で図書館に来るような子どもたちを、子ども読書リーダーに取り込んで一緒にやっていけると良いのではないかな。
- ・主な取組みに記載されている「区立図書館と学校図書館司書等」との定期的な交流会...」とあるが、もし交流会をやっているならば、指標化しても良いのではないかな。
- ・小・中学校の調べ学習支援について、小学校と中学校の調べ学習の違いみたいなものがみれると良いのではないかな。
- ・中高生についての記載が、この基本方針 1 にはあまり出てきていないのではないかな。
- ・基本方針 1 「0歳児からの読書を支える図書館」とあるが、幼児のことを中心に取り組んでいるような印象を受けるので、小中高生に関する言葉が入ると良いのではないかな。
- ・ある図書館では、おはなし会に来るとスタンプをもらえるカードを作るなど図書館によって色々なやり方がある。これは結局、おはなし会の回数が多ければいいのか、来ている人が多ければいいのかというのも、どこを目指すというところであると思うし、どのようにしているかはその図書館によって違うと感じた。

- ・ブックリストについて、全体を通して配付先に児童館が出てこないが、児童館も乳児から高校生までとても魅力的なイベントとか活動をしているので、そこにこの魅力的なブックリストがないのはもったいないなと思った。

○基本方針2 大人の学びを豊かにする図書館

- ・選書の判断をどう考えているかは利用者にはわからないので、どんな仕組みなのかを明らかにして公開していれば、この図書館運営協議会でも意見を言う機会となると思う。
- ・世田谷区立図書館としてこういった資料を収集・選書するのかを、区民に分かりやすく公開したほうが良い。
- ・図書館が行う講演やイベントについて、区報だけでなくもっと全体にアピールするものがあれば、大勢の人に知ってもらい、それまで図書館に興味を持っていなかった方も来てくれるのではないかな。
- ・利用者登録について、登録者数がどれくらいいるのかをみることも一つの指標になるのではないかな。
- ・選書を見える化するというのはとても大事なことだと思うし、それをその指標に、評価の中で選書を見える化することやうたうというのは非常に先進的なことじゃないかなと思うので、ぜひそれを目指したいなと思う。
- ・どういう本を買っていくかという考え方をぜひ知りたいと思ったわけだが、そのほかに、分野別の蔵書数などを見ていると、各館ごとの分野別のバランスなんかもどのように考えているか。中央図書館では専門的なもの、地域図書館ではそれよりももう少しみんなに親しみやすい本をとるか、そういうこともいろいろ考えて、世田谷区の図書館全体としてのバランスを見たりされているのかなと思うので、見える化するのであれば、そのようなところも少し説明を入れていただけたらいいと思う。
- ・事業の回数を増やす一つのやり方として、やはり世田谷区は広く、遠くのところでのイベントはなかなか行けなかったりと思うので、同じようなイベントを複数の場所でやるとか、そういう形で回数を増やすということもぜひ今後の取組みの方向性の中に加えていただきたい。

- ・歴史や工学を見ると、令和3年度は令和2年度に比べて総冊数が下がっている。これは多分廃棄や除籍があったからこういう数字になるのであって、どういう本を買うかと同時に、どういう資料を廃棄したり除籍しているのかということも書いていただかないと、これが妥当なのかどうかという判断はできない。それだけに、やはり資料収集方針の成文化とその公表というのは図書館にとっての一種の生命線で、これをきちんと公表していくことは大事だろう。
- ・図書館資料管理規程第7条、第8条の資料収集方針に関連している箇所について、具体的にどのように収集しようとしているのかよく分からなかった。明文化された細かい収集方針や除籍の基準といったものがあれば、それを公表すれば良いと思う。

○基本方針3 暮らしや仕事に役立つ図書館

- ・今後、レファレンスの認知度に関しても指標化していくことは必要ではないか。
- ・選書の判断をどう考えているかは利用者にはわからないので、どんな仕組みなのかを明らかにして公開していれば、何か意見を言う機会になると思う。(再掲)
- ・世田谷区立図書館としてこういった資料を収集・選書するのかを、区民に分かりやすく公開したほうが良い。(再掲)
- ・利用者登録について、登録者数がどれくらいいるのかをみることも一つの指標になるのではないか。(再掲)
- ・団体貸出について、図書館側から本の提案や話を伺えるような仕組みがあるとよいと思う。
- ・アンケート項目に利用時間帯を追加して、職業と利用時間帯をクロス集計すれば、暮らしや仕事に役立つのかわかるのではないか。
- ・選書を見える化するというのはとても大事なことだと思うし、それをその指標に、評価の中で選書を見える化するというのをうたうというのは非常に先進的なことじゃないかなと思うので、ぜひそれを目指したいと思う。(再掲)
- ・どういう本を買っていくかという考え方をぜひ知りたいと思ったわけだが、そのほかに、分野別の蔵書数などを見ていると、各館ごとの分野別のバランスなんかもどのように考えているか。中央図書館では専門的なもの、地域図書館ではそれよりももう少しみんなに親しみやすい本をと、そういうこともいろいろ考えて、世田谷区の図書館全体としてのバランスを見たりされているのかなと思うので、見える化するのであれば、そのようなところも少し説明を入れていただけたらいいと思う。(再掲)

- ・歴史や工学を見ると、令和3年度は令和2年度に比べて総冊数が下がっている。これは多分廃棄や除籍があったからこういう数字になるのであって、どういう本を買うかと同時に、どういう資料を廃棄したり除籍しているのかということも書いていただかないと、これが妥当なのかどうかという判断はできない。それだけに、やはり資料収集方針の成文化とその公表というのは図書館にとっての一種の生命線で、これをきちんと公表していくことは大事だろう。(再掲)
- ・図書館資料管理規程第7条、第8条の資料収集方針に関連している箇所について、具体的にどのように収集しようとしているのかよく分からなかった。明文化された細かい収集方針や除籍の基準といったものがあれば、それを公表すれば良いと思う。(再掲)

○基本方針4 世田谷の魅力を収集・発信する図書館

- ・世田谷の魅力を発信するならば、図書館の職員がほかのイベント会場に行って、その発信と一緒に支援するという形を取らないとこの施策は実現できないのではないかな。
- ・世田谷の魅力を広く伝えるのは、発信の回数を増やすか、媒体を増やすかだと思うが、例えば LINE など新しいツールの活用を検討しても良いのではないかな。
- ・郷土資料館や文学館など世田谷の文化資源を持っているところと連携し、横断して検索できるコンテンツサービスの充実を図ることで、大人の学びを豊かにすることにもつながるのではないかな。
- ・地域の自治会や町会とかが出しているいろんなプリント、まちでこんなことがありましたみたいな資料も電子化できたら、図書館に来られなくても見られる方とかがいるのかなと思った。
- ・世田谷の魅力を広く伝えるというところで、例えば国分寺崖線であり、いろんな芸術家や文学者や、あるいは吉良家とか、非常にたくさんあるが、中央図書館で一つのテーマをつくって、それを毎年更新して、全館に展開していったらいいんじゃないかなと思う。

○基本方針 5 図書館ネットワークの構築

- ・図書館間相互協力について、区外からの資料取寄せに関する認知度が低いのは、図書館職員が案内しているかといった、職員の対応による場合もあり、基本方針 6 の施策の方向性にある「職員に必要なスキルと専門知識の向上を図る」と関係してくるのではないかと。
- ・図書館ネットワークの構築というのは、確かにシステム構築ではあるが、他館からの取り寄せ、区内あるいは都立図書館、国会図書館でもいいが、そういう実績も、ネットワークが構築できたからだとは言えるかと思う。アンケートは丁寧に取られているので、もっと活用できるのかなと思った。
- ・世田谷区立図書館運営体制あり方検討委員会的时候から非常に重点を置いていたのが、中央図書館の機能強化ということで、強化は今どこまで機能があって、どこまで拡充するのか計画を示して、進捗で評価したい。
- ・相互貸借について、他自治体、これは国立国会図書館や都立図書館を含めて、基本的にはどこの図書館でも積極的に利用者の方に使っていただきたいサービスだと思う。ただ、ほかの自治体や国会図書館から借りようというのが目的ではなくて、利用者が、この資料を見たいと思ったときに、それが世田谷の図書館になく、絶版、品切れで他の図書館にしかないといったときに取り寄せとなる。相互協力そのものは、あくまで手段だと思っている。
- ・「中央図書館のマネジメント機能の充実」について、基本方針 5 と基本方針 6 に重複して書かれていると、どちらをベースに議論したらいいのかというのがよく分からないと思ったので、人員を育成していくものなのか、マネジメントとしてトップダウンで落とすような方針を決めるものなのか、日々の業務の品質の向上なのか、その視点で分けていただくとか、来年度の図書館運営協議会の運営、評価の仕方についてぜひ検討いただきたい。

○基本方針 6 専門性と効率性を両立した運営体制の構築

- ・指定管理に関して、導入した効果は出ていると思うが、この協議会で評価・検証するならば、別で指定管理の評価委員会を行っていると思うので、そこで使っている資料などをこの協議会に活用することもできるのではないかな。
- ・例えば返却期限が過ぎた際、速やかに督促業務を行い、次の利用者に早く本を貸し出すなど、日々の業務の品質に関する指標が必要ではないかな。
- ・職員の必要なスキルに関して、研修を受けた職員が図書館職員としてどれだけ長く勤務しているかで、レファレンスの対応なども変わってくると思うので、これまで培ったスキルを生かせるような職員の配置も必要ではないかな。
- ・日本図書館協会で全国の司書を対象に経験を積んで、研修を受けている司書を認定する仕組みがある。認定司書と言っているが、全国でかなりの人数がこの認定司書の資格を取っていく。世田谷区の図書館職員は 150 人程度いるが、毎年 1 人ずつでもいいから、その認定司書の資格が取れるように研修を受けて、その能力を発揮できるだけの文章、論文が書けるかどうか。そういうものも評価指標の中に取り入れて、毎年少なくとも 1 人は認定されるようにするとかという雰囲気とか、そういう機運を世田谷区の中でも盛り上げていく必要はある。
- ・指定管理者制度をどこまで入れたいのかという計画を教えていただき、その進捗度合いで評価したい。
- ・指定管理者制度について、区民の中には、アンケート調査にあるように懸念を持っている方が少なからずいらっしゃるというのは事実。それを踏まえて、「民間活力を計画的に導入する」と言い切っているものかどうか。
- ・アンケートはすごく労力がかかって大変だと思うが、例えば 1 個 1 個の質問に個別に意見を書いたりするところがない。もう少し個別欄を設けたらいいのかなとか、1 個 1 個のいろいろな改善点があるんじゃないかなと思うが、こういうところで何かそういう時間が設けられたらいい。

- ・「民間活力を計画的に導入」だが、指定管理制度の評価というのは、管理している側が評価しているものはあったと思うが、区民側からの評価というのは見たことがない。図書館全体としての評価の中の項目が曖昧なまま、指定管理者制度を導入する気がするので、その辺りの評価はどうしていくのか明確にしていただけると良いと思う。
- ・「中央図書館のマネジメント機能の充実」について、基本方針5と基本方針6に重複して書かれていると、どちらをベースに議論したらいいのかというのがよく分からないと思ったので、人員を育成していくものなのか、マネジメントとしてトップダウンで落とすような方針を決めるものなのか、日々の業務の品質の向上なのか、その視点で分けていただくとか、来年度の図書館運営協議会の運営、評価の仕方についてぜひ検討いただきたい。（再掲）

○その他

- ・世田谷区新実施計画（後期計画）の事業項目で「知と学びと文化の情報拠点としての新たな図書館の創造」とあり、第2次世田谷区教育ビジョンでは「知と学びと文化の情報拠点としての図書館の充実」に変わっているが、第2次世田谷区立図書館ビジョンは具体的な行動的なところに移ってくる。

ビジョンをつくって大きなことをやろうとしても、結局行動計画に落としていくと、やれることをしっかりやろうというところに陥ってしまう。どこでこの創造が消えてしまっているのかなとか、そのあたり、新しいことをつくっていくというその発展的改善も絶対あってしかるべきだと思う。しっかり運営するということと、時代が変わっていくので、変わっていく時代とともにどう変えていくのかということをしっかり創造していくという視点が必要だと思う。

- ・第2次世田谷区立図書館ビジョン第3期行動計画の5ページ目以降を見ると、これまでの主な取組みと課題が書かれている。この課題をどういう観点で上げたのか、継続的な課題なのか、ずっと続いている課題なのか、それとも第2期行動計画で掲げたことによるP D C AのDに対するCのところで浮き彫りになった課題なのか、その課題の抽出が正しいのか、そこはチェックしたい。
- ・小中学校の子どもたち全員にタブレットが配付され、子どもたちもネットで本を読むという時代になっていくと思う。そのときに図書館の役割は一体何なんだろうということ、これから先の未来、もう少し近い将来、ネット図書館みたいなものができるのかもしれないとか、そういう話も少し加えたらいいと思う。
- ・タブレット端末のG I G Aスクール構想が全国に進展しているが、紙の本が直ちに電子に置き換わっているわけではなく、今まさに過渡期だと思う。現状として紙の本による読書の意義というのは失われてはいないと思うし、図書館に来て、一定の時間を過ごし、雑誌、新聞、書籍と対面している利用者がまだまだ多いと思うので、この評価の枠組みというのは現状では有効だろうと感じている。ただ、それが時代とともに変わっていくというのは当然であり、適宜改めていくことは必要だと思う。
- ・行動計画という言葉と評価という言葉の使い方が独特の使われ方で難しいと感じた。

- ・図書館ビジョン第3期行動計画 10 ページの図は、ずっとプランをしているように見えて、どこでDと、Cと、Aが入るのかイメージとして湧きづらい。
- ・PDCAの観点から、課題がどれくらい解決されたかとか、達成できたかということをはかることも大事だと思うが、一方で、デジタル化やコロナ禍で図書館の在り方も変わってくる中で、図書館としての何か新しい価値を今後見いだしていくことも大事だと思う。そうなったときに、課題がどれくらい解決できたという話とはまた別の切り口で、各図書館で面白い取組をやられているところもあるので、インプット、アウトプットに加えてアウトカムのような形で、どんな波及効果が出たかを見ていくことも大事なかなと思う。
- ・コロナ禍の影響について、貸出冊数や入館者などのアウトプットは減っているが、図書館としては必要な資料を購入しておく、あるいはサービスをするための人材育成をきちんとしておくというインプットができていくかはチェックしていく必要がある。
- ・第3期行動計画の冊子の中に令和2年度に行われたアンケートの結果があるが、このアンケートの項目とビジョンとの関係がよく分からなかった。これからアンケートを実施する際は、リンクさせることを視野に入れてもいいと思う。
- ・民間でも、ユーザー調査・ユーザーアンケートは大事にしている。最近は、数字だけではなくて、体験をキーワードにユーザー調査を実施している。例えばある日のシーンという題目で、人が来た、ここで人がいろいろわいわい、がやがやした、その結果こうなって、また来たいなと思わせるというような、図書館で暮らす人のシーンが具体的に書かれていて、それに対して、実際評価できたかという、1つのストーリーをつくっていくのは非常に大事なかなと思う。
- ・図書館によって受けるサービスの質と量が違うなという印象があり、その質がどこから起こるかということ、各年度に各図書館が取り組む事業をコントロールされていないからだと思う。小さな図書館が事業を2つも3つもやるとマンパワーが足りなくて、ほとんど難しい。したがって、中央図書館が次年度にやる各図書館の事業を管理統括して、同じことをそれぞれがやるのではなくて一括して行って、全ての図書館が同じサービスを提供する部分もあっていい。そうすると、ある程度その質の平準化が図られるような気がする。